

第1回可児市地域公共交通協議会 議事要点録

日時 平成25年6月27日(木)

午後1時30分～午後3時50分

場所：可児市役所4階第3会議室

出席者：(委員) ※50音順：敬称略

加納 正佳 木村 治史 桑下 和弘 小山 幸男 佐橋 雅喜 澤田 幸博
栃川 敏 林 則夫 林 美由樹 門間 實 宮田 博文 横田 賢二
若林 拓史

(代理)

増田 久美子(松田 勲委員) 山口 孝司(溝口 明宏委員)

(事務局)

総合政策課長 牛江 宏 総合政策係長 河地 直樹 企画統計係長 飯田 好晴
企画統計係主任 渡邊 真史 総合政策係主事 伊藤 佑治

欠席者：佐々木 透 品川 湜彦 堀 博幸 山本 豊

1. あいさつ

会長が開会を宣した。

(異動等により変更になった委員の紹介)

会長から新しく委員になった3名(松田勲委員、堀博幸委員、山本豊委員)を委嘱し、氏名を読み上げて紹介した。

(議事録署名者の指名)

会長から議事録署名者として、小山幸男委員と栃川敏委員を指名した。

2. 監査委員の選任及び平成24年度可児市公共交通協議会会計について

(監査委員の選任)

会長が会計監査委員として、林美由樹委員と、宮田博文委員を委嘱したことを報告した。

(会計についての説明)

平成24年度の会計報告を事務局より説明した。

3. 《協議事項》可児市公共交通ネットワーク計画の策定について

事務局が資料1に基づき、可児市公共交通ネットワーク計画策定にあたっての、目的・問題点、課題の整理・基本方針・推進体制等を説明した。

○委員 OD調査は毎年行うのか。

○事務局 極力把握することが大切と承知しているが、調査を毎年行う体制が整備されていない。2～3年のスパンで行う予定である。

○委員 「バスの乗り方サポート」や「利用モデルダイヤの作成」とは具体的にはどのようなことか。

○事務局 例えば、健友会の方に協力していただいて高齢者の方へのサポート体制を作れるように思っている。また、「この時間にこのバスに乗れば、こんなことが出来ます」などといったモデルを地区ごとに示していくことで、少しでも利用しやすいものにしていけるように考えている。

○委員 利用促進策の具体的なスケジュールは再編後に立てるのか。

○事務局 そのとおりである。まずはバスの再編をPRしていき再編後に利用促進のPRを行う予定である。

○委員 乗継拠点における待ち合い環境の改善とあるが、具体的にはどのようなことか。

○事務局 乗継拠点は、市役所、村木、ヨシヅヤを予定している。市役所については待ち合い環境が整いつつあるが、まだ改善の余地があると思っている。村木については、路上もしくは病院の中しかないので今後は検討が必要と考えている。ヨシヅヤについては、あけぼの橋付近のバス停から、ヨシヅヤの出入りに近い所にバス停を置くことはできないか、ヨシヅヤと調整をしている。実現できれば、待ち合い環境の改善につながると思っている。

○委員 村木のバス停名を東可児病院前等に変更した方が利用者にとって分かりやすいのではないか。

○事務局 貴重な意見として今後の参考にさせていただく。

○委員

①計画の中には、需要の分析がなく、再編をするということの根拠があまり書かれていない。可児市のような市は交通需要が大量ではないため、一人の客でも失わないよう、また一人でも多く乗ってもらえるよう大切にすることを考えた方がよいのではないか。

実際乗っている人がどこから乗ってどこまで行くのかを検証し再編をすることで、その客は今後も続けて乗ってもらうことが出来ると思う。

②電話で予約バスの帷子・大森地区の利用者が減少しているとあるが、さつきバス時代の利用者数と比較した数値を押さえておかないといけない。その数値の確認をお願いしたい。

③利用者には乗り換え抵抗があり、乗り換えしてまで乗って頂けるかどうか分からない。乗り換えをしないような渦巻型の路線にしたほうが、利用者に喜んでもらえるのではないかと。

④さつきバス・電話で予約バスの利用者は高齢者が中心であるが、可児市の最上位目標である「若い世代が住みたいと感じる魅力あるまちの創造」とどのように調和していくのか。

○事務局

①昨年度の調査報告書から再編案を策定したものであり、調査の具体的な内容については、本計画では省略してある部分があるためご理解いただきたい。本来であれば調査報告書を冊子としてお配りしなければいけないが、用意できておらず申し訳ない。また、再編方針の具体的な内容は、本計画の15ページに記してある。

それぞれの路線でOD調査を行い、その結果や利用者の意向からルートを設定したものである。

②さつきバスが走っていた当時の乗降者数の詳細を報告した。

③渦巻型のルートについては事務局としても出来る限り渦巻型になるよう設定をしたが、バスの台数、ダイヤの関係でこのようなルートを設定せざるを得なかったためご理解いただきたい。今後も実態をみながら改革はしていかなければいけないと思っている。

④現在利用している高齢者が乗れなくなってしまっただけでは意味がない。高齢者の方に利用をしてもらうのが大前提でルートやダイヤを設定している。加えて、朝夕の便を増やすことで幅広い世代の方に利用していただければと思っている。

○委員 一日乗車券の導入は、さつきバスのみを検討しているのか。

○事務局 まずは、さつきバスのみを導入を考えている。交通事業者のすべてで使えるよう努力するが、現状としてはハードルは高いと予想している。

○委員 可児市内の公共交通全般（東鉄バス・名古屋鉄道等）を対象にした一日乗車券を導入した方が利用促進につながるのではないかと。

○事務局 今後も協議はしていくが、市が単独でできることではないため、ハードルは高いと予想している。

3. (2) 地域公共交通確保維持改善事業について

事務局が資料1（別紙）に基づいて、国の補助制度を利用するために申請を行うことを説明した。

【質疑なし】

3. (3) さつきバス及び電話で予約バスの改変について

事務局が資料2、資料2（別紙）、資料3に基づいて、さつきバス及び電話で予約バスの改変について説明した。

○委員 桜ヶ丘線については、物理的な障害はないと思うが、なぜ往路復路でルートを変えたのか。

○事務局 桜ヶ丘線については乗車時間が長いという話が以前からあったため、なるべく短くなるよう設定した。往路については需要の多いヨシヅヤと村木を優先的に早く通るように、また復路については、なるべく乗車時間が短くなるよう設定しているため、往路復路で異なるルートとなっている。ただし、往路でヨシヅヤ等へ行った方も、さつきバスで帰れるよう、ダイヤやルートを設定している。

○委員 利用者からみると往路復路で路線が違っていると混乱する可能性があるため、しっかりと広報で周知をしておく必要がある。

○事務局 承知した。

○委員

①西部線に何度も乗っているが西部線の甘露寺、塩・上のバス停付近は、広見線の線路が道路に対しやや鋭角になっており踏切の所は道幅も狭くバスが通るには危険である。また甘露寺のバス停は乗降客数がゼロということから廃止は妥当だと思う。

②春里公民館から下矢戸、打越へ行く道はとても狭く、乗用車でも相互交通ができない状況であるため、バスの通行は危険だと思う。集落を通る意味は良く分かるし必要だと思うが、道が狭く危険であるため、路線を変更してもいいのではないかと。利用者がバス停まで多少の距離を歩くのもやむを得ないと思う。

③坂戸西のバス停については、近くに大型の商業施設があり、交通量も多い。この道路にバスが止まるのは交通に支障が生じるのではないかと思う。商業施設内にバス停を変更することは可能か。

また、現場を見て各路線を決めているのか疑問に思う。現場をしっかりと見て判断し、朝令暮改にならないよう注意して頂きたい。

○事務局

①賛同いただいた部分については、よろしくお願ひしたい。(事務局提案について同調をいただいた)

②路線を新設する選択肢も検討の段階ではあったが、バスの事業者より道幅が狭く危険であるという意見はいただけていないため、現状の運行ルートで願ひをしたい。

③ご指摘の通り、坂戸西については非常に交通量の多い路線ではあるが、道路本線から退避した箇所にバス停のスペースが確保されているため、現時点で大きな交通渋滞を引き起こす可能性はないと

思っている。また、商業施設の駐車場にバス停を設置することに対しての危険を事務局としては危惧している。今後も、実際の利用者から意見をいただきながら対応していきたい。

今のルートで、大きな障害はないと認識しているが、今後は、事業者と話を詰めていきたい。

○委員 実際に事務局は、すべての路線を回って危険箇所等を目で確かめた方がいいと思う。必要があれば委員会のメンバーも実際に乗ってみて検討する必要があると思う。

○委員 今回の路線は、ほとんどがすでに運行している路線であり、実際に運行しているが安全性等に問題はないと考えており、事務局にもその旨の話は伝えてある。また、坂戸西については現状のバス停を利用したほうが、危険はないと思っている。ただ、商業施設の中に入った方が良いという意見が多くあれば検討させていただく。

○委員 中心環状線も実際にバスで回って確認しているのか。

○委員 確認している。

○委員 後で手直ししなければいけない状況だけは避けなければいけない。問題がないという解釈の尺度は、事業者と利用者では違うので注意しなければいけない。

○事務局 本日の時点で委員の方に実際に乗ってもらうということまでは思っていない。事務局と東濃鉄道と危険箇所等の確認を行い、問題ないルートで最終決定をする予定である。

○委員

①広報活動はとても重要だと思っている。バスが走っていることを知っている人は7割～8割だが、このバスが何時にどこに行くのかを知っている人は2割～3割程度と思った方がよい。たとえば、家庭の冷蔵庫に貼れるようなものなどコンパクトなもので広報活動をすることが重要と感じる。

②今回のアンケート調査は利用者を対象にしていると思うが、各地域の次の世代に乗って頂くためのマーケティングも必要と思っている。

○事務局 貴重なご意見として頂くが、アンケート調査については利用者だけでなく、地域アンケートも行っている。次世代の方に乗って頂くためのPRも今後させていただく。

○委員 今回の再編は規模の大きなものと思っているが、支局の立場としてスケジュールには余裕をもって対応をお願いしたい。

○事務局 本日の会議で、協議事項について承諾していただけるのであれば、8月に書面での決議をして頂きたいと考えている。ただし、大きな変更をしなければいけない場合は8月上旬に公共交通協議会を開催させていただく予定である。

○委員 桜ヶ丘線については東濃鉄道緑ヶ丘線の路線も利用するようにとあるが、料金体系に違いがあるため、なんとか緩和策はないものか伺いたい。

○事務局 コミュニティバスは現行の路線バスを補完するものであり競合するものではないため、ご理

解を頂きたい。

○委員 電話で予約バスの「広見東・中恵土地区」と「下恵土・広見地区」はエリアが重複しているがこの詳細について伺いたい。

○事務局 「広見東・中恵土地区」については広見東・中恵土地区に住んでいる方のために設定した区域で、「下恵土・広見地区」については下恵土・広見地区に住んでいる方のための区域であるため、エリアとしては重複しているが、目的は違うものである。

【本日の協議事項すべてについて了承】

○会長 本日の協議事項についてすべて、了承が得られたため、今後のスケジュールとしては、大きな問題が発生しない限り、この方向性で進めていただきたい。

○事務局 まだ未完成の部分があるため、完成後、資料を送付して、個々にご意見を頂く機会を設ける。

4. 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）活性化について

事務局が資料4に基づき、名鉄広見線の活性化へ、これまでの取り組み及び、平成25年度以降における名鉄広見線のあり方について説明した。

5. 閉会

会長から、本日の協議結果について非公開にする部分はないことの確認があり閉会した。

前記のとおり会議の議事要点を記載し、その相違ないことを証するためここに署名する。

平成 25 年 8 月 9 日

署名委員 栢川 敏

署名委員 小山 幸男
